

令和5年度

調査研究成果報告書

**生涯学習における学習履歴の可視化・  
デジタル化に関する調査研究  
ー オープンバッジの活用を通して ー**

令和6年12月

広島県立生涯学習センター



生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化に関する調査研究  
ー オープンバッジの活用を通して ー

【調査研究者】

広島県立生涯学習センター 社会教育主事 吉長 愛

【調査研究・助言者】

広島県立生涯学習センター 生涯学習推進マネージャー 山川 肖美  
(広島修道大学 教授)

研究の要約

本報告書は、オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化について調査研究を行い、その成果と課題をまとめ今後の取組について考察したものである。本調査研究は文部科学省の「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」において広島県教育委員会が調査研究の協力機関として実施したものである。先行研究から、生涯学習分野における学習成果の評価・活用を推進していく上で、学習履歴の証明、その成果に対する評価の可視化、広く活用していく仕組みの3点が必要であるにも関わらず途上にあることを把握した。そこで本調査研究では、広島県立生涯学習センター（以下「当センター」とする。）の五つの事業において、学習履歴の可視化における「オープンバッジ」の可能性を探究することとした。その結果、学習履歴の可視化・デジタル化は、デジタルリテラシーの向上や学びのモチベーションの向上につながる事が分かった。このことから、生涯学習分野において、学習履歴を可視化・デジタル化することは、学びを評価・活用していくツールとして有効であるといえる。

目次

|                                              |    |                                          |    |
|----------------------------------------------|----|------------------------------------------|----|
|                                              | 5  | アンケート・・・・・・・・・・                          | 7  |
|                                              | 6  | オープンバッジ発行作業・・・・・・・・                      | 9  |
|                                              | 7  | 受領者インタビュー・・・・・・・・                        | 10 |
|                                              | 8  | オープンバッジ受領者交流会・・・・・・・・                    | 10 |
|                                              | IV | 調査研究の結果・・・・・・・・                          | 11 |
|                                              | 1  | オープンバッジ発行数及び受領数・・・・・・・・                  | 11 |
|                                              | 2  | オープンバッジ受領者の属性・・・・・・・・                    | 11 |
|                                              | 3  | デジタル証明・・・・・・・・                           | 12 |
|                                              | 4  | 受領者インタビュー・・・・・・・・                        | 13 |
|                                              | 5  | オープンバッジ受領者交流会・・・・・・・・                    | 13 |
|                                              | V  | 調査研究の分析と考察・・・・・・・・                       | 15 |
|                                              | 1  | 国民のデジタルリテラシーの向上（ア）について成果があったか・・・・・・・・    | 15 |
|                                              | 2  | 学びの可視化とモチベーションの向上（イ）について成果があったか・・・・・・・・  | 16 |
|                                              | 3  | 「学び」を通じたコミュニティの活性化（ウ）について成果があったか・・・・・・・・ | 18 |
| はじめに・・・・・・・・                                 | 2  |                                          |    |
| I 調査研究の概要・・・・・・・・                            | 3  |                                          |    |
| 1 文部科学省委託事業概要・・・・・・・・                        | 3  |                                          |    |
| 2 オープンバッジについて・・・・・・・・                        | 3  |                                          |    |
| 3 当センターにおける調査研究概要・・・・・・・・                    | 3  |                                          |    |
| 4 文部科学省・株式会社ネットラーニング・協力機関（4団体）の連絡ツール・・・・・・・・ | 4  |                                          |    |
| II 調査研究の仮説及び検証の視点と方法・・                       | 4  |                                          |    |
| 1 調査研究の仮説・・・・・・・・                            | 4  |                                          |    |
| 2 検証の視点と方法・・・・・・・・                           | 4  |                                          |    |
| III 調査研究の実際                                  |    |                                          |    |
| 1 オープンバッジ発行のための団体登録・・                        | 4  |                                          |    |
| 2 オープンバッジ発行対象事業の検討・・                         | 5  |                                          |    |
| 3 オープンバッジのメタデータ及びバッジデザイン作成・・・・・・・・           | 5  |                                          |    |
| 4 オープンバッジ説明資料・・・・・・・・                        | 7  |                                          |    |

|                          |    |
|--------------------------|----|
| VI 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ | 19 |
| おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・     | 19 |

## はじめに

1984年に公布された臨時教育審議会設置法に基づき、総理府に設置された臨時教育審議会<sup>(1)</sup>の第一次答申（昭和60年）において、生涯学習社会においては、学習自体の喜びが味わえるとともに、どこで学んでも、個人が取得、体得した資格、学習歴、専門的技能などの成果が適切に評価されることが必要であると示されている。

また、臨時教育審議会第三次答申（昭和62年）において、生涯を通じて行われる学習の成果が適切に生かされるような、総合的かつ有機的な生涯学習のためのシステムをつくる視点から評価の多元化ならびに生涯学習の基盤整備の推進が示され、第四次答申（昭和62年）において、どこで学んでも、いつ学んでも、その成果が適切に評価され、多元的に人間が評価されるよう、人々の意識を社会的に形成していく必要があると示されている。

これらに基づき、生涯学習審議会（1992）「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について（中間まとめ）」<sup>(2)</sup>において、生涯にわたって何を学んできたか、どのような知識、技術、技能や資格を身に付け、どのようにして豊かな人間性を養ってきたか、どのように人生を歩んできたかなどの個人の生涯にわたる学習歴や学習の蓄積が重視されるような環境を醸成していかなければならない。生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が評価されるような生涯学習社会を築いていく必要があると示されている。

さらに、生涯学習審議会（1999）「学習成果を幅広く生かすー生涯学習の成果を生かすための方策についてー」<sup>(3)</sup>において、自らのキャリアを開発し、学習成果を社会的活動、進学、就職、転職、再就職等に広く活用していくために、自らの学習成果を積極的にアピールし、社会的評価を求めることができるようにする必要が生じている。これからは個々人がそれぞれの学習成果の記録として、例えば外国のポートフォリオのような「生涯学習パスポート」（生涯学習記録票）を作り、活用できるようにすべきであろうと示されている。

これらを受け、各都道府県で独自の「生涯学習パスポート」が作られた。広島県では、同年「第11回全国生涯学習フェスティバルまなびピア広島'99」が開催され、広島県独自の生涯学習パスポートを開

発し、来場者に配付した。その後、東広島市の小学生用「まなぶちゃんノート」・中学生用「ジュニアパスポート」をはじめ多くの自治体が「生涯学習パスポート」を活用した生涯学習分野の学習履歴を可視化する取組を行った。主には生涯学習分野の学習を行ったり、講座に参加したりするとスタンプがもらえ、ノート一冊分スタンプが貯まると、文具等と交換できるといったような仕組みである。この取組により、生涯学習への意欲が高まり、自らの学びが認められ、スタンプが貯まっていくことが励みとなって次の学習の意欲へとつながっていった。

そんな中、新型コロナウイルス感染症が世界的流行（パンデミック）をもたらし、生涯学習分野においても大きな影響をもたらすこととなった。

第10期中央教育審議会生涯学習分科会<sup>(4)</sup>（令和2年）において、新型コロナウイルス感染症に関する対応が発生したことで学校教育・社会教育のそれぞれの場において学びを止めないことの重要性が共有されたとともに、ICTなどの新しい技術を活用した学びなど、学びの新たな可能性も示されたところであると示されている。また、新しい技術を活用した学びは、一人ひとりの習熟度や興味関心によって個別最適なプログラムの提供が可能であったり、学習履歴（スタディ・ログ）の保存・確認等が容易になったりすると示されている。

さらに、第11期中央教育審議会生涯学習分科会<sup>(5)</sup>（令和4年）において、リカレント教育の推進を図る上では、一定のまとまりある体系的な知識・技能等の習得を可能とする履修証明制度の活用も含め、学習履歴の可視化を図ることも重要であり、オープンバッジなどのデジタル技術を活用することも考えられると示されている。

これらを受けて、令和5年度、文部科学省は「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」を行い、広島県教育委員会はその調査研究事業の協力機関として、当センターの事業のうち、五つの研修及び講座において学習履歴の可視化・デジタル化とその活用を行った。これまで各市町で行ってきた「生涯学習パスポート」のような学習履歴の可視化を、当センターの事業においてデジタルツールを用いて行ったのである。これは、全国の自治体初の試みである。学校教育以外の学びにおけるDXを実現していく第一段階として、地方自治体が実施する生涯学習分野の学習履歴をデジタル化する実証的調査研究である。

本調査研究は、多機能型LMS「Multiverse」<sup>(6)</sup>を

通じて、教育・研修・学習に関するデジタルソリューションサービスを提供している、株式会社ネットラーニング（文部科学省の委託企業）とともに実施した、事業選定から意見交流会開催までのプロセス及び実証に係るデータを収集・分析し、デジタルツールを用いた学習履歴の可視化による成果と課題をまとめたものである。

## I 調査研究の概要

### 1 文部科学省委託事業概要

#### (1) 題目

「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」

#### (2) 業務期間

令和5年4月27日～令和6年3月25日まで

#### (3) 委託業務の目的

- ・地方公共団体等が住民に提供する生涯学習講座等や社会教育分野における称号等に関する学習履歴のデジタル化を推進するため、オープンバッジの作成・発行・管理等の実証を通じて、学習履歴をデジタル化する利点及びその具体的な手法をまとめた教育関係機関向けの手引きを作成する。
- ・当該実証を通じて、学習の修了者の受講後の意識や行動変容に係るデータを収集・分析し、効果的な政策立案に資する知見を獲得する。

#### (4) 受託企業

株式会社ネットラーニング

#### (5) 協力機関

- ・都道府県：広島県立生涯学習センター（広島県教育委員会）
- ・市町村：静岡県藤枝市（市民大学）
- ・教育機関：九州大学
- ・法人：一般社団法人プレゼンテーション検定協会

#### (6) オープンバッジを発行することを通じて目指すもの

##### ア 国民のデジタルリテラシーの向上

オープンバッジウォレットの登録や、受領したオープンバッジのSNS共有を通して、デジタル技術を利用する機会を提供する。また学習履歴を可視化し、蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促す。

##### イ 学びの可視化とモチベーションの向上

生涯学習分野でオープンバッジを発行すること

で、プロセス（学習過程）としての個々の人の学びの証明を行い、オープンバッジの利用を通して学びのモチベーション（意欲）を高め、それを維持し、自発的な学習を促す。

### ウ 「学び」を通じたコミュニティの活性化

社会教育分野でオープンバッジを発行することで「学び」を通じた人と人とのつながりや絆の深まりを促し、コミュニティの活性化を目指す。

## 2 オープンバッジについて

オープンバッジ<sup>①</sup>とは、国際標準規格に則って発行されるデジタル証明／認証で、スキルの可視化を実現するものである。取得したオープンバッジは、画像としてインターネット上で公開できる。また、メールへの署名添付やSNSでの共有などが可能である。

オープンバッジはこれまでに、世界各国で多くの団体から発行されており、発行サービス提供組織からの報告によると2022年時点で約7,500万個の発行が確認されたが、未報告分も含めると1億個を超えると推測される。

オープンバッジは、いつ、誰が、どのような基準を満たしオープンバッジを受け取ったかという情報がデジタルデータとして画像データに書き込まれており、オープンバッジのデザインや内容証明のデータは発行団体が作成する。発行されたオープンバッジは、受領者の「ウォレット」で保管される。

本調査研究においては、バッジデザインや内容証明について、株式会社ネットラーニングの支援のもと、当センターが作成する。

## 3 当センターにおける調査研究概要

本調査研究では、当センターの事業のうち、五つの研修及び講座の受講証明として、オープンバッジを発行する。発行に際しては、Zoomを利用し、株式会社ネットラーニングのオンライン支援を受けながら行う。調査研究の対象となる研修及び講座について、表1に示す。

表1 調査研究の対象となる研修及び講座

| 研修・講座名                                      | 研修・講座内容                                                                                   |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】社会教育経営編 | 社会教育主事（専門的教育職員）として常に更新しておくべき資質・能力の向上を図る。<br>[講義・演習]<br>社会教育経営の理論と実際<br>～コーディネート能力の向上に向けて～ |

|                                              |                                                                                                     |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】生涯学習支援編  | 社会教育主事（専門的教育職員）として常に更新しておくべき資質・能力の向上を図る。<br>[講義・演習]<br>生涯学習支援の理論と実際<br>～障害者の学習支援の充実に向けて～            |
| アウトリーチ型家庭教育支援研修                              | 子育て・家庭教育支援に携わるボランティア等が、子供や保護者の現状や抱える課題を共感的に理解し、身近な地域住民として相談に応じるなどの保護者に寄り添う活動が展開できるよう求められるスキルの向上を図る。 |
| 「親の力」をまなびあう学習プログラム」（以下「親プロ」とする。）ファシリテーター養成講座 | 親プロを活用して実施する家庭教育講座等で進行役を務めるファシリテーターの養成を行う。                                                          |
| 親プロファシリテーターフォローアップ講座                         | 親プロファシリテーターのスキルアップや、潜在ファシリテーターへの参加を促すことを目的とし、ファシリテーターとしてのスキルをフォローアップする。                             |

オープンバッジ発行対象研修の最初にオープンバッジの説明を行い、全員に1回目アンケートを実施する。オープンバッジ受領を希望する人には、個人情報取扱に係る同意書に署名をいただく。

アンケートを集計し、結果を株式会社ネットラーニングと共有する。

オープンバッジ受領数の多い受領者にインタビューを行い、バッジ受領に関わる意見聴取を行う。

12月中旬、10月末までにオープンバッジを受領した人を対象に、2回目アンケートを実施し、2回目アンケートのみの集計と、1回目アンケートと2回目アンケートを突合した集計を行う。

12月までにオープンバッジを受領した人を対象に、「オープンバッジ受領者交流会」を開催（オンライン）する。

オープンバッジ受領者交流会の議事録を作成し、受領者の会話を四つの視点で分析・考察を行う。

初めての取組のため、オープンバッジを周知する観点から、比較的受講者の多い事業を選定してオープンバッジを発行し、まずは、I-1(6)のアを目指す。

これらの調査研究を通して、I-1(6)のA・I・Uそれぞれの項目について、成果及び課題を検証する。

## 4 文部科学省・株式会社ネットラーニング・協力機関（4団体）の連絡ツール

文部科学省・株式会社ネットラーニング・協力機関（4団体）で、月1回程度検討委員会を行い、協力機関（4団体）は進捗及び今後の取組について報告を行う。連絡を取り合うコミュニケーションツールとして「Slack」、容量の大きな資料の送付用ツールとして「キャビネット」の活用が提案され、メールにて招待を受けたが、広島県のセキュリティにブロックされ使用不可能だったため、メール及び広島県ファイル転送システムによる連絡を行うこととする。

## II 調査研究の仮説及び検証の視点と方法

### 1 調査研究の仮説

オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行えば、人々がデジタル技術に触れることができ、研修や講座に対する学習意欲が高まったり、学びを通じた人と人とのつながり等のコミュニティの形成を図ったりすることができるであろう。

### 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表2に示す。

表2 検証の視点と方法

| 検証の視点                 | 方 法                                                                   |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 国民のデジタルリテラシーの向上（ア）  | ・ 2回目アンケート<br>・ 1回目・2回目アンケートの突合データ                                    |
| 2 学習意欲の向上（イ）          | ・ 2回目アンケート<br>・ 1回目・2回目アンケートの突合データ<br>・ 受領者インタビューでの意見<br>・ 受領者交流会での意見 |
| 3 学びを通じたコミュニティの活性化（ウ） | ・ 2回目アンケート<br>・ 受領者インタビューでの意見<br>・ 受領者交流会での様子<br>・ 受領者交流会振り返りアンケート    |

## III 調査研究の実際

### 1 オープンバッジ発行のための団体登録

オープンバッジの発行を行うために、オープンバッジならびに、デジタル証明の登録業務サービスを行っている財団に団体登録を行う。その際、団体名及び団体ロゴの登録が必要であることから、当セン

ターのロゴを作成する。当センターのロゴとロゴに表現した思いについて、表3に示す。

表3 当センターロゴとロゴに表現した思い

| 当センターのロゴ                                                                          | ロゴに表現した思い                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>文字</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体名は日本語と英語の2種類で表記。</li> <li>・当センターの愛称である「ばれっとひろしま」は、当センターのホームページと色やフォント等の表記を統一。</li> </ul> <p><b>枠</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛称の「ばれっとひろしま」に込められた「たくさん色が絞り出されたパレットのように、多目的で夢のある施設」を表現。</li> </ul> <p><b>人型ピクトグラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人と人、人と学びをつなぐことを表現。</li> </ul> |

## 2 オープンバッジ発行対象事業の検討

広島県教育委員会として、オープンバッジの発行を行うのは初めてであることから、文部科学省と相談の上、オープンバッジの発行数が多く見込まれる研修及び講座を選定（前掲表1）する。

親プロファシリテーター養成講座及びフォローアップ講座については、当センターが直接実施しているのではなく、各市町で実施しているため、令和4年度の実施実績を基にオープンバッジの発行数が多く見込まれる「福山市」及び「東広島市」を調査対象として選定する。調査研究過程において、オープンバッジ発行数が当初予定を下回っていたため、当センター職員が講師として講座に参加したり受講したりした「江田島市」「府中町」「世羅町」「廿日市市」「尾道市」（講座実施日時順）を調査対象に追加する。

アウトリーチ型家庭教育支援研修は、家庭教育支援チーム等、地域で活躍するボランティアの学習履歴を可視化し、価値付けするという意図によりオープンバッジ発行対象研修とする。

## 3 オープンバッジのメタデータ及びバッジデザイン作成

調査研究の対象となる研修及び講座のメタデータ及びバッジデザインを作成する。

### (1) メタデータ

メタデータとは、オープンバッジの画像データに記載するオープンバッジの内容説明であり、バッジ

名や研修の説明等である。メタデータに記載する内容について、表4に示す。

表4 メタデータに記載する内容

| 項目   | 内容                                                                                                                                          |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 必須項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バッジ名…研修・講座名</li> <li>・説明…研修・講座の概要</li> <li>・取得条件…研修・講座の修了条件</li> <li>・外部共有…ON/OFFを受領者が選択</li> </ul> |
| 任意項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・スキル…習得したスキル</li> <li>・有効期限…有効期限がある場合は記載</li> <li>・エビデンス…研修修了日等</li> </ul>                        |

### (2) メタデータ作成

当センターがメタデータの記載項目に沿って案を考え、株式会社ネットラーニングに送付し、フィードバックをいただく。オープンバッジの取組を昨年度から継続されている、静岡県藤枝市民大学の方にメタデータ作成における留意点についてアドバイスをいただく。

#### ア 藤枝市民大学の方からのアドバイス

- ・受領者がどれだけの内容を学んで、どのようなスキルを身に付けたのかをできるだけ具体的に記載する。
- ・定量的なデータをできるだけ含む。
- ・受領者にとって役立つ・使えるものにするという視点で作成する。

#### イ 株式会社ネットラーニングからのアドバイス

- ・第三者が見たときに「学習者の努力」及び「学習者のスキル」が簡潔に分かるようにする。
- ・説明欄は改行できないが、取得条件欄は改行ができるため、説明欄に記載していた内容について、箇条書きの方が分かりやすいものは、取得条件欄に移動させる。
- ・知識・スキル欄は一つのタグに一つのスキルになるように記述する。  
例：「場のデザイン（場を作り、引き出す）」  
→「場のデザイン（場を作る）」「場のデザイン（引き出す）」
- ・知識・スキル欄には、第三者が検索するときのキーワードになる言葉を記載する。  
例：「社会教育」
- ・研修及び講座の参加者の属性をイメージしやすくするため、受講対象者を記載する。

### (3) アウトリーチ型家庭教育支援研修

以上に述べたことを踏まえ、各オープンバッジのメタデータを作成する。

アウトリーチ型家庭教育支援研修のメタデータは



アウトリーチ型家庭教育に馴染みのない第三者が見てもイメージが湧くように、受領者がスキルを活用する場について記載する。アウトリーチ型家庭教育支援研修のメタデータについて、表5に示す。

表5 アウトリーチ型家庭教育支援研修メタデータ

| バッジ名       | アウトリーチ型家庭教育支援研修                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 家庭教育支援とは、保護者が家庭教育を行う上で必要となる学びを支援するために、各自治体において保護者に対し、学習機会や情報の提供等を行うものであり、家庭教育支援チームは、保護者の皆さんが安心して子育てや家庭教育ができるように支援する役割を担います。アウトリーチ型家庭教育支援研修では、子供や保護者の現状や抱える課題を共感的に理解し、身近な地域住民として相談に応じるなどの保護者に寄り添う活動が展開できるよう、求められるスキルを習得します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 取得条件       | <p>●内容・目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「説明」家庭教育支援に求められている現状及び課題について、理解を深める</li> <li>2. 「講義」保護者への共感的理解の方法や、傾聴等を含めた対応方法について理解する</li> <li>3. 「演習」ロールプレイングやケーススタディを通して、話しやすい状況づくりや支援者としての考えを深める</li> </ol> <p>●対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育支援チーム</li> <li>・家庭教育支援に携わる関係者（親プロファシリテーター、読み聞かせボランティア、放課後子供教室支援員等）</li> </ul> <p>●修了条件・実績</p> <p>アウトリーチ型家庭教育支援研修【第1回】または【第2回】の受講</p> <p>●資格・スキル活用の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校入学説明会における子育て相談</li> <li>・参観日後の子育て相談 等</li> </ul> |
| 外部共有       | On                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| タグ：スキルカテゴリ | 家庭教育支援<br>コーディネート<br>ファシリテーション<br>傾聴<br>話しやすい場づくり<br>多様な特性の理解<br>共感的理解<br>寄り添い型支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 有効期限       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| エビデンス      | 研修修了日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

#### (4) バッジデザイン

##### ア バッジ画像における表記

- ・発行団体名（ロゴ可）
- ・認定講座・資格名

#### イ 枠組み

正円、正六角形を標準とする。

#### ウ 留意事項

- ・世界で共有できる点を考慮し、英語での記載が推奨されている。
- ・サイズが小さいため、字がつぶれて見えなくなないように注意する。
- ・文字情報は最小限にする。

#### (5) 当センター発行のオープンバッジのデザイン

当センター発行のオープンバッジのデザイン及びバッジデザイン作成において考慮したこと等について、表6に示す。

表6 オープンバッジのデザイン及びバッジデザイン作成において考慮したこと等

| バッジデザイン                                                                              | バッジ名及びバッジデザイン作成において考慮したこと等                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | <b>親プロファシリテーター養成講座</b><br>親プロファシリテーター養成講座修了者には、これまで修了証と缶バッジを付与しているため、その缶バッジのデザインと同じことを証明していることが分かるように同じイラストを使用。                                  |
|  | <b>親プロファシリテーターフォローアップ講座</b><br>親プロファシリテーター養成講座と同様、缶バッジのイラストを使用し、バッジ内の講座名のみ「フォローアップ講座」に変更。                                                        |
|  | <b>社会教育主事等研修 社会教育経営編</b><br>一目見たときに、当センターが発行したオープンバッジだと分かるよう、当センターのロゴデザインと大枠を同じにし、色の変化を付ける。                                                      |
|  | <b>社会教育主事等研修 生涯学習支援編</b><br>社会教育経営編と同様、当センターのロゴデザインと大枠を同じにし、色の変化を付ける。                                                                            |
|  | <b>アウトリーチ型家庭教育支援研修</b><br>お父さん・お母さん・子供というイメージにならないよう、子供の要素を遊具で表現。家庭教育支援は、学校・公民館等、地域全体で行うため、街のシルエットを使用。子供たちを育てる土壌をイメージして黄土色を使用。心が寄り添うイメージでハートを使用。 |

#### 4 オープンバッジ説明資料

研修や講座の受講者に対して、オープンバッジの概要と利用方法を伝えることを目的とし、説明資料を作成する。株式会社ネットラーニングが原案を作成し、オープンバッジ等の専門用語が分からない人にも分かりやすくなるよう加筆・修正を依頼する。特に、受領までの流れやエラーが出た場合の対応については、イラスト等を交えながら詳しく説明する等、デジタル機器の操作が苦手な方にも分かりやすくなるよう配慮する。また、親プロファシリテーターフォローアップ講座を行う「福山市」及び「東広島市」には、市町の担当者にオープンバッジの説明を依頼するため、株式会社ネットラーニングに説明の台本も作成していただき、担当者・株式会社ネットラーニング・当センターをZoomで繋いで打合せを行う。オープンバッジ説明資料について、図1に示す。



図1 オープンバッジ説明資料

また、オープンバッジの受領には「氏名」と「メールアドレス」が必要になるため、受領者の個人情報取扱に際しては細心の注意を払い、「同意書」を作成し、個人情報収集の目的と活用について説明する。同意書の内容について、以下に示す。

##### ・個人情報の取得と利用

調査・分析業務及びオープンバッジの発行・管理・活用のために利用する。

##### ・個人情報の管理と保護

収集した個人情報は厳重に管理・保管を行い、本調査事業の目的外で第三者に提供しない。

##### ・法令・規範の遵守

個人情報に関する法律及びその他関係法令を遵守する。

##### ・問合せ・苦情への対応

保有する個人情報に対するお問い合わせや苦情に対して、受付、対応の体制と手順を整備し、迅速に

対応する。

#### 5 アンケート

本調査研究に係るデータを収集するため、オープンバッジの受領前アンケート（1回目アンケート）及び受領後アンケート（2回目アンケート）を作成する。1回目アンケートは、株式会社ネットラーニングが作成し、当センターが追加項目を提案する。

2回目アンケートは、株式会社ネットラーニングが作成したものを実施する。

1回目アンケートと2回目アンケートの項目を表7・次頁表8に示す。

表7 1回目アンケート項目

| アンケート項目                                                       | チェック欄 | 選択肢等                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 氏名                                                         |       |                                                                                                                                                              |
| 2. 個人のメールアドレス                                                 |       |                                                                                                                                                              |
| 3. 年齢を選択してください。                                               |       | 20歳未満<br>20歳代<br>30歳代<br>40歳代<br>50歳代<br>60歳代<br>70歳以上                                                                                                       |
| 4. あなたの御職業を選択してください。                                          |       | 会社員<br>パート・アルバイト<br>公務員（首長部局勤務）<br>公務員（教育委員会事務局勤務）<br>公務員（公民館等勤務）<br>教職員<br>自営業・自由業<br>地域おこし協力隊<br>専業主婦・主夫<br>NPO法人・団体職員<br>大学生・大学院生<br>高校生<br>無職<br>その他（記述） |
| 5. 所属市町をお答えください。                                              |       |                                                                                                                                                              |
| 6. ブロックチェーン技術を活用したサービス（オープンバッジ、仮想通貨、電子決済など）についてお聞きします。あなたの状況に |       | 使ったことがある<br>知っているが、使ったことはない                                                                                                                                  |



|                                                           |  |                   |
|-----------------------------------------------------------|--|-------------------|
| 一番近いものを選択してください。                                          |  | わからない             |
| 7. 「オープンバッジ」という単語を以前に聞いたことがありましたか。                        |  | はい                |
|                                                           |  | いいえ               |
| 8. 「オープンバッジ」を受領した経験はありますか。                                |  | はい                |
|                                                           |  | いいえ               |
| 9. No.8 の設問で「はい」と御回答された方は御記入ください。どのようなバッジを受領されていますか。      |  | (記述)              |
| 10. 修了証として、どのような証明書を発行してほしいですか。                           |  | 紙                 |
|                                                           |  | デジタル              |
|                                                           |  | 紙とデジタルの両方         |
| 11. その理由を教えてください。                                         |  | (記述)              |
| 12. 講習など「学び」に関する情報収集の際によく利用されている媒体をお答えください。(複数回答可)        |  | PC                |
|                                                           |  | スマートフォン           |
|                                                           |  | 新聞・雑誌             |
|                                                           |  | 書籍                |
|                                                           |  | テレビ・ラジオ           |
|                                                           |  | 知人から              |
|                                                           |  | その他 (記述)          |
| 13. 現在利用されている SNS をお答えください。(複数回答可)                        |  | Instagram         |
|                                                           |  | X (Twitter)       |
|                                                           |  | LinkedIn          |
|                                                           |  | Facebook          |
|                                                           |  | 利用していない           |
|                                                           |  | その他 (記述)          |
| 14. SNSは実名で御利用されていますか。実名で御利用されている SNS を全て選択してください。(複数回答可) |  | Instagram         |
|                                                           |  | X (Twitter)       |
|                                                           |  | LinkedIn          |
|                                                           |  | Facebook          |
|                                                           |  | 利用していない           |
| 15. 今回学ぶ講座の他に身に付けたいスキル、学びたい内容を教えてください。                    |  | その他 (記述)          |
|                                                           |  | (記述)              |
| 16. オープンバッジの利用方法を聞き、あなたはどのような活用ができそうですか。(複数回答可)           |  | SNSでの共有           |
|                                                           |  | メールでの共有・報告        |
|                                                           |  | 家族・友人や同僚など身近な人に話す |
|                                                           |  | 就職・転職活動でのアピール     |
|                                                           |  | 自身の学習履歴の可視化       |
|                                                           |  | その他 (記述)          |
|                                                           |  | (記述)              |

表 8 2 回目アンケート項目

| アンケート項目                                                                                     | チェック欄 | 選択肢等                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1. オープンバッジについて<br>当センターの研修・講座以外で「オープンバッジ」という単語を（新聞やメディア等で）聞きましたか。                           |       | はい                              |
| 2. オープンバッジ発行について<br>オープンバッジの発行を受けて、他のオープンバッジを取得してみたいなりましたか。（他のオープンバッジ発行対象講座を受けてみたいになりましたか。） |       | はい                              |
|                                                                                             |       | いいえ                             |
| 3. オープンバッジが発行される講座について<br>インターネット等でオープンバッジが発行される講座を調べたり、オープンバッジ発行対象の講座を受講したりしましたか。（複数回答可）   |       | どちらともいえない                       |
|                                                                                             |       | オープンバッジウォレットで検索した               |
|                                                                                             |       | インターネットで調べた                     |
|                                                                                             |       | オープンバッジ発行対象講座を受講した              |
|                                                                                             |       | 特に何もしていない                       |
| 4. No.3 の設問で「オープンバッジ発行対象講座を受講した」と回答した方<br>どんな研修、または講座を受講しましたか。                              |       | その他 (記述)                        |
|                                                                                             |       | (記述)                            |
| 5. No.3 の設問で「特に何もしていない」と回答した方<br>その理由を選択してください。（複数回答可）                                      |       | 他のオープンバッジに興味がなかった               |
|                                                                                             |       | 検索方法が分からなかった                    |
|                                                                                             |       | 検索する時間がなかった                     |
|                                                                                             |       | 検索できることを知らなかった                  |
|                                                                                             |       | バッジを受領した講座以外の研修や講座を、受講する予定がなかった |
|                                                                                             |       | その他 (記述)                        |
| 6. オープンバッジの活用について<br>実際にオープンバッジをどのように活用しましたか。（複数回答可）                                        |       | SNSでの共有                         |
|                                                                                             |       | メールでの共有・報告                      |
|                                                                                             |       | 家族・友人や同僚など身近な人に話す               |
|                                                                                             |       | 所属組織への報告・スキル証明 (URL共有)          |
|                                                                                             |       | 就職・転職活動でのスキル証明 (URL共有)          |
|                                                                                             |       | 自身の学習履歴の可視化                     |
|                                                                                             |       | 特に活用していない                       |
|                                                                                             |       | その他 (記述)                        |

|                                                                 |  |                                                   |
|-----------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------|
| 7. No.6 の設問で「SNSの共有」と回答した方共有したSNSを選択してください。（複数回答可）              |  | Instagram                                         |
|                                                                 |  | X (Twitter)                                       |
|                                                                 |  | LinkedIn                                          |
|                                                                 |  | Facebook                                          |
|                                                                 |  | その他（記述）                                           |
| 8. オープンバッジの今後<br>オープンバッジは今後、御自身にとって役立つと思いますか。                   |  | とてもそう思う                                           |
|                                                                 |  | そう思う                                              |
|                                                                 |  | どちらともいえない                                         |
|                                                                 |  | そう思わない                                            |
|                                                                 |  | まったくそう思わない                                        |
| 9. 理由<br>その理由を教えてください。                                          |  | （記述）                                              |
| 10. オープンバッジの取得について<br>オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思いますか。（11段階でお答えください。） |  | 0                                                 |
|                                                                 |  | 1                                                 |
|                                                                 |  | 2                                                 |
|                                                                 |  | 3                                                 |
|                                                                 |  | 4                                                 |
|                                                                 |  | 5                                                 |
|                                                                 |  | 6                                                 |
|                                                                 |  | 7                                                 |
|                                                                 |  | 8                                                 |
|                                                                 |  | 9                                                 |
|                                                                 |  | 10                                                |
| 11・理由<br>その点数を付けた理由を教えてください。                                    |  | （記述）                                              |
| 12. 証明書について<br>今後受講する様々な研修・講座の修了証として、どのような媒体で証明書を発行してほしいですか。    |  | 紙                                                 |
|                                                                 |  | デジタル                                              |
|                                                                 |  | 紙とデジタルの両方                                         |
| 13. 理由<br>その理由を教えてください。                                         |  | （記述）                                              |
| 14. ウォレットの機能について<br>オープンバッジウォレットについて追加してほしい機能はありますか。（複数回答可）     |  | オープンバッジ受領者のランキング表示（バッジ受領数が多い順）                    |
|                                                                 |  | 取得したオープンバッジを整理する機能（取得順や内容、有効期限による並び替え等）           |
|                                                                 |  | オープンバッジ受領者への友達申請と個別チャット機能                         |
|                                                                 |  | 同じオープンバッジを取得している人のコミュニケーション機能（タイムライン投稿、グループチャット等） |
|                                                                 |  | 受領したオープンバッジを基に、お勧めの講座が表示される機能                     |

|  |  |         |
|--|--|---------|
|  |  | その他（記述） |
|--|--|---------|

## 6 オープンバッジ発行作業

作成したオープンバッジデータ（オープンバッジデザイン及びメタデータ）を登録し、オープンバッジ発行作業を行う。

### (1) オープンバッジデータ登録

作成したオープンバッジデータの登録は、Zoomを利用し、株式会社ネットラーニングのオンライン支援を受けながら行う。メタデータは、登録画面に入力した後プレビュー表示し、内容が読みやすくなるよう修正を行う。

### (2) オープンバッジ受領者リスト登録

研修及び講座の受講者のうち、オープンバッジ受領を希望される方に、1回目アンケートの中でメールアドレスを提供していただき、受領者リストを作成する。メールアドレス等の情報をCSVファイルに入力するのだが、CSV UTF-8（コンマ区切り）(\*.csv)でのみオープンバッジの発行が可能というシステム上の制限があり、当センターが利用しているExcel（2013年版）ではCSVファイルの保存が不可能であるため、以下の作業を行う。

① Excelのシートを一度CSV（コンマ区切り）

(\* .csv) で名前を付けて保存する。

② CSV（コンマ区切り）(\*.csv) のファイルを右クリックし、「プログラムから開く」→「メモ帳」を選択する。

③ 「ファイル」→「保存」をクリックし、「CSV UTF-8（コンマ区切り）」を選択し、保存する。

この方法により、CSVファイルの保存はできるようになるが、元はExcel（2013年版）のためExcelシートをメモ帳にせず開いてしまうと文字化けしてしまい、一度文字化けしたシートは使えなくなるためもう一度メールアドレス等の入力から行う。

その他、既に登録している人は、二つ目のオープンバッジ受領からは受領者リストの登録をする必要がなく、登録が重複しないよう既存データからメールアドレスで検索し、既存データの無い新規の人のみ受領者リストの登録を行う。

### (3) オープンバッジ発行作業

受領者リストの登録後、発行リストを作成する。メールアドレスや研修日等をCSVファイルに入力し受領者リストと同様の作業（①～③）で保存を行い、登録する。エラーが出た場合、一度発行したオープンバッジを削除することが出来ないことから、

失効手続き、メールアドレス再登録、オープンバッジ再発行という作業を行う。エラーが出る原因の一つは、受講者から提供いただいたメールアドレスの誤記入である。一文字足りない等の問題が発生するため、対面での研修及び講座では、その場で1回目アンケートに回答していただき、メールアドレスが正しく記入されているか確認する。

7 受領者インタビュー

株式会社ネットラーニングと合同で、オープンバッジ最多受領者にインタビューを行う。

- 日 時 令和5年9月28日（木）  
9時から10時まで
- 場 所 オンライン（Zoom）
- 方 法 半構造化インタビュー法
- 対 象 オープンバッジ最多受領者  
東広島市教育委員会生涯学習課  
生涯学習推進員  
徳永 梢氏
- 受領したオープンバッジ（時系列）
  - ・令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】社会教育経営編
  - ・令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】生涯学習支援編
  - ・「親プロ」ファシリテーターフォローアップ講座
  - ・アウトリーチ型家庭教育支援研修
- 目 的
  - ・オープンバッジ受領の目的を知る。
  - ・オープンバッジを受領して感じたことを知る。
  - ・オープンバッジはモチベーションの向上につながるのか知る。
  - ・オープンバッジの具体的な活用法を知る。
  - ・オープンバッジの将来的な活用イメージを知る。
- 項立て
  - ・研究事業について
  - ・受領者自身について
- 項 目  
インタビューの質問項目について、表9に示す。

表9 インタビューの質問項目

|                           |
|---------------------------|
| 研究事業について                  |
| ・オープンバッジが発行された研修の参加状況について |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| お聞きします。どんな研修に参加されましたか。<br>・その四つの研修は、どうして参加しようと思われたのですか。<br>・それらはどんな研修でしたか。感想を聞かせていただけますか。<br>・結果としてオープンバッジを受領されたわけですがどう思われましたか。<br>・受領してどんな活用をされましたか。（アンケート項目提示）（周りの反応は？）<br>・今後どのような活用を考えておられますか。<br>・本研究では、バッジ受領者同士のつながりやコミュニティの形成を目指しておりますが、徳永様はどうお考えですか。<br>・オープンバッジの未来について、どんなふうになっていったらよいと思われますか。<br>・こんなことをしてくれたら、みんながもっと受領できるのに、と思うことはありますか。<br>・こんなことを県（国）に支援してもらいたいと思うことはありますか。 |
| 受領者自身について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ・海外にお住まいだったと以前お聞きいたしましたが、どちらの国にどのくらいの期間お住まいでしたか。<br>・海外のオープンバッジはどのようなものがありましたか。<br>・広島県以外のバッジも受領されたとお聞きしましたがどのようなバッジを受領されましたか。<br>・他のバッジも受領しようと思われたのはなぜですか。                                                                                                                                                                                                                               |

8 オープンバッジ受領者交流会

株式会社ネットラーニングと合同で、オープンバッジ受領者交流会を行う。

- 日 時 令和6年1月24日（水）  
18時から19時まで
- 場 所 オンライン（Zoom）
- 方 法 グループに分かれて意見交流
- 対 象 オープンバッジ受領者
- ねらい  
社会教育・生涯学習分野における学習意欲の向上及びオープンバッジ受領者同士のコミュニティ形成を図る。
- 参加者  
14名（広島市5名、尾道市2名、福山市2名、東広島市1名、廿日市市2名、江田島市1名、北広島町1名）
- グループ分け  
受領者を受領したオープンバッジの種類ごとに四つのグループに分け、株式会社ネットラーニングと当センターの職員がコーディネーターとして各グループに入る。
- トークテーマ（分析の四つの視点）  
①オープンバッジの発行者及び受領者双方の立場での活用方法について

②所属市町でオープンバッジが発行できそうな事業について

③オープンバッジの課題について

④オープンバッジアイディアについて

### (1) 意見交流

オリエンテーションの後、各グループがブレイクアウトルームに分かれ、トークテーマに沿って意見交流を行う。最後にメインルームにて、全体交流を行う。

### (2) 意見交流の内容の分析

各グループの意見交流を録画し、文字起こしを行う。その内容を、分析の四つの視点毎に切り分け、受領者同士がどのような意見を交流したのか分析する。分析には、ユーザーローカルA I テキストマイニングによる分析<sup>⑧</sup>を活用する。テキストマイニングとは、テキストデータから必要な情報を抽出して分析する手法である。分析の四つの視点において、「スコア順」及び「出現頻度順」の2種類の分析を行う。「スコア順」は出現回数だけでなく、調査対象の文書にだけよく出現する単語を重視しており、その調査ならではの言葉が現れる。また、「出現頻度順」では拾われなかった言葉も「スコア順」では表示されるなど、その調査で出てきた言葉（単語）の多様性を見て取ることができる。

## IV 調査研究の結果

### 1 オープンバッジ発行数及び受領数

令和5年5月から令和6年3月末までに当センターが発行したオープンバッジは、127個で受領者は98名であった（4個受領が1名、3個受領が3名、2個受領が20名、1個受領が74名）。表10はオープンバッジ発行対象研修・講座の受講者数・オープンバッジ希望者数・希望率を示したものである。オープンバッジ発行対象研修・講座の受講者146名のうち、オープンバッジの希望者は127名で13%の人が希望しなかった。希望しない理由として、「デジタルはよく分からない」「機械が苦手」「デジタルを活用する機会がない」等が挙げられた。

表10 オープンバッジ発行対象研修・講座の受講者数・オープンバッジ希望者数・希望率 N=146

| 研修・講座名                                          | 受講者数<br>(人) | 希望者数<br>(人) | 希望率<br>(%) |
|-------------------------------------------------|-------------|-------------|------------|
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修<br>【社会教育主事等研修】社会教育経営編 | 25          | 21          | 84.0       |

|                                                 |     |     |      |
|-------------------------------------------------|-----|-----|------|
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修<br>【社会教育主事等研修】生涯学習支援編 | 23  | 22  | 95.7 |
| アウトリーチ型家庭教育支援研修                                 | 46  | 39  | 84.8 |
| 親プロファシリテーター養成講座                                 | 34  | 32  | 94.1 |
| 親プロファシリテーターフォローアップ講座                            | 18  | 13  | 72.2 |
| 合計                                              | 146 | 127 | 87.0 |

表11は、オープンバッジ発行数及び受領数・受領率を示したものである。オープンバッジの受領率は95.3%となり、オープンバッジの発行を希望したが受領手続きをしていない人は6名だった。株式会社ネットラーニングによると、受領率が95%以上なのは非常に高く、オープンバッジ受領に関するリマインドメールを送信したことや、受領手続きに不安がある人に直接会って、一緒に受領手続きを行ったこと等が要因と考えられる。

表11 オープンバッジ発行数及び受領数・受領率 n=127

| 研修・講座名                                          | 発行数<br>(個) | 受領数<br>(個) | 受領率<br>(%) |
|-------------------------------------------------|------------|------------|------------|
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修<br>【社会教育主事等研修】社会教育経営編 | 21         | 21         | 100        |
| 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修<br>【社会教育主事等研修】生涯学習支援編 | 22         | 21         | 95.5       |
| アウトリーチ型家庭教育支援研修                                 | 39         | 38         | 97.4       |
| 親プロファシリテーター養成講座                                 | 32         | 29         | 90.6       |
| 「親プロ」ファシリテーターフォローアップ講座                          | 13         | 12         | 92.3       |
| 合計                                              | 127        | 121        | 95.3       |

### 2 オープンバッジ受領者の属性

1回目アンケートの結果から、オープンバッジ受領者の属性について、表12及び次頁表13に示す。

表12 オープンバッジ受領者の年齢 n=98

| 年 齢   | 人数(人) | 分布率(%) |
|-------|-------|--------|
| 20歳未満 | 0     | 0      |
| 20歳代  | 3     | 3.1    |
| 30歳代  | 12    | 12.2   |
| 40歳代  | 35    | 35.7   |
| 50歳代  | 29    | 29.6   |

|       |    |      |
|-------|----|------|
| 60歳代  | 15 | 15.3 |
| 70歳以上 | 4  | 4.1  |

表12は、オープンバッジ受領者の年齢を示したものである。40歳代が一番多く、40歳代及び50歳代を合わせた人数は、オープンバッジ受領者の6割を越えていることが分かる。

表13 オープンバッジ受領者の所属市町 n=98

| 年 齢   | 人数(人) | 分布率(%) |
|-------|-------|--------|
| 広島市   | 16    | 16.3   |
| 呉市    | 1     | 1.0    |
| 三原市   | 1     | 1.0    |
| 尾道市   | 10    | 10.2   |
| 福山市   | 9     | 9.2    |
| 府中市   | 3     | 3.1    |
| 三次市   | 2     | 2.0    |
| 東広島市  | 9     | 9.2    |
| 廿日市市  | 23    | 23.5   |
| 安芸高田市 | 2     | 2.0    |
| 江田島市  | 5     | 5.1    |
| 府中町   | 12    | 12.2   |
| 海田町   | 1     | 1.0    |
| 坂町    | 1     | 1.0    |
| 北広島町  | 1     | 1.0    |
| 世羅町   | 2     | 2.0    |

表13は、オープンバッジ受領者の所属市町を示したものである。広島県23市町中、16市町にオープンバッジ受領者が存在し、一番多かったのは親プロフェッショナル養成講座を年に2回実施した廿日市市だった。

### 3 デジタル証明

表14は、オープンバッジについての認知度及び受領経験についてまとめたものである。複数受領している人は、最初にオープンバッジを受領した研修・講座のアンケート結果をカウントした。「オープンバッジ」という単語を以前に聞いたことがある人は26人で、26.5%だったが、受領経験のある人は1人で、1%だった。

表14 オープンバッジの認知度及び受領経験 n=98

| アンケート項目                           | はい(人) | いいえ(人) |
|-----------------------------------|-------|--------|
| 7. 「オープンバッジ」という単語を以前に聞いたことがありますか。 | 26    | 72     |
| 8. 「オープンバッジ」を受                    | 1     | 97     |

|              |  |  |
|--------------|--|--|
| 領した経験はありますか。 |  |  |
|--------------|--|--|

図2は、修了証として、どのような証明書を発行してほしいかについて、グラフにまとめたものである。表14同様、複数受領している人は、最初にオープンバッジを受領した研修・講座のアンケート結果をカウントした。修了証は紙でほしいと回答した人は1人で、今回はオープンバッジの発行を希望しているが、「デジタルは出力して保管する手間がかかる」と回答している。デジタルでほしいと回答した人は44名で44.9%、紙とデジタルと両方ほしいと回答した人は53名で54.1%となった。デジタルを希望した人は、「いつでも確認できる」「紙で持っても必要な時に取り出せない」「今後に向けてはデジタルでよい」等と回答し、両方を希望した人は、「デジタルのみだと不安」「まだまだデジタルが浸透していないので、しばらくは両方ほしい」「紙が必要な場面もある」等と回答している。

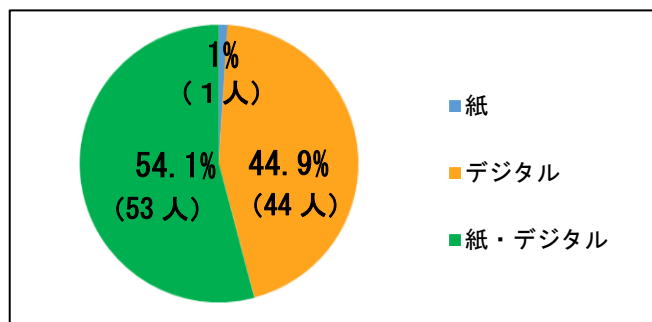


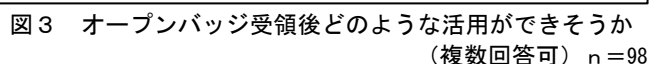
図2 修了証としてどのような証明書を発行してほしいか n=98

また、修了証としてどのような証明書を発行してほしいかについて、年齢属性ごとの割合を表15に示す。

表15 修了証としてどのような証明書を発行してほしいか n=98

|       | 回答者数 | 紙   | デジタル | 紙・デジタルの両方 |
|-------|------|-----|------|-----------|
|       | 人    | %   | %    | %         |
| 総数    | 98   | 1.0 | 44.9 | 54.1      |
| 【年齢】  |      |     |      |           |
| 20歳未満 | 0    | 0   | 0    | 0         |
| 20歳代  | 3    | 0   | 0    | 3.1       |
| 30歳代  | 12   | 0   | 5.1  | 7.1       |
| 40歳代  | 35   | 0   | 16.3 | 19.4      |
| 50歳代  | 29   | 1.0 | 16.3 | 12.2      |
| 60歳代  | 15   | 0   | 5.1  | 10.2      |
| 70歳以上 | 4    | 0   | 2.0  | 2.0       |

図3は、オープンバッジ受領後どのような活用が  
できそうかについてまとめたものである。自身の学  
習履歴の可視化と回答した人は63名で全体の64.3%  
となった。次に、家族・友人や同僚など身近な人に  
話すと回答した人が40名で、40.8%となった。その  
他と回答した5名は、「よく分からない」「活用ま  
でいかない」等と回答している。



インタビューの項立てに対してどのような回答があったかをテキストマイニングで分析した。その際「オープンバッジ」「ウォレット」の二つの単語が会話の中で多く出てきていたため、具体的な回答内容が多く表示されるよう、その二つを抜いて分析を行った。「研究事業について」のスコア順の結果を図4、出現頻度順の結果を図5に示す。

出現頻度順では、「勉強」「研修」に続き、「ポイント」が多く現れたが、関連して「集める」「貯める」「つながる」という単語が現れた。「ウォレットにオープンバッジが貯まると嬉しい」「どんど

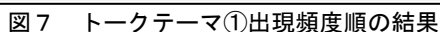
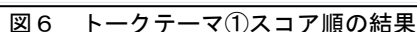
[illegible][illegible]

トークテーマ①オープンバッジの発行者及び受領者双方の立場での活用方法について、②所属市町でオープンバッジが発行できそうな事業について、③オープンバッジの課題について、④オープンバッジアイデアについて、受領者同士がどのような意見を交流したのかテキストマイニングを使って分析を行った。

スコア順では、「エリアマネジメント」「多文化共生」「社会教育」等が大きく現れた。「受領したオープンバッジをどこで生かせるかが重要」「エリアマネジメント・福祉・多文化共生等のフィールドで生かせるのではないか」「他の社会教育分野でも活用できそう」等の意見が出された。また、「生かすというよりも「マイルストーン」として市民に持ってもらう方が、情報交換や内輪のネットワーク等

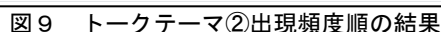


出現頻度順では、「見せる」「持つ」「分かる」「できる」等が大きく現れた。「バッジを見せて同じバッジだったら共通の話題に繋げやすい」「勉強したことが目に見えて分かる」「持っている人がいろんなところにて、それをうまく使って情報共有できたり、自分の企画のアドバイスをもらったりできたら有難い」等の意見が出された。



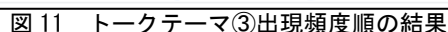
スコア順では、「ウェルビーイング」「ボランティア」「活動履歴」等が大きく現れた。「ボランティア等される方の活動を価値付けたい」「ボランティアと言いつつ、ボランティアの方々の御厚意に甘えているところが多々ある」「活動履歴が分かるとよい」「時代に即したウェルビーイング。それぞれのやりがいに価値を」等の意見が出された。

図8 トークテーマ②スコア順の結果



生涯学習 積極性 一般化 標準化 活用 社会教育 教育委員会 上層部 分野  
 持ちこたえる アピール いろいろ 携帯電話 ニーズ 資格 受講 3年ぶり 拡大 専門性 ユーザ  
 打ち出す ぼくら 使える 信じる 見付ける 発行 認証明書 学び  
 できる 公衆電話 進める 押さえる 登える  
 すり合わせ 積極性 なす 打ち出す ぼくら 使える 信じる 見付ける 発行 認証明書 学び  
 持ちこたえる アピール いろいろ 携帯電話 ニーズ 資格 受講 3年ぶり 拡大 専門性 ユーザ  
 打ち出す ぼくら 使える 信じる 見付ける 発行 認証明書 学び  
 できる 公衆電話 進める 押さえる 登える

図 10 トークテーマ③スコア順の結果



スコア順では、「生涯学習」「社会教育」「一般化」「標準化」等が大きく現れた。「もっとオープンバッジの活用が増え、メジャーにならないと何とも言えない」という意見に対し「携帯電話も無い時代。公衆電話で文字だけ打つ時代があった。携帯電話が出てきて、今はスマートフォンが当たり前になったと考えたら10年後にはオープンバッジが当たり前になるかもしれない」等の意見が出された。

出現頻度順では、「アピール」「活用」「認知」等が大きく現れた。「認知されなさ過ぎて、アピールするニーズがない」「オープンバッジを受領しても、所属している組織がそれを尊重する気が無ければ何の役にも立たない」「活用する側も重要」等の意見が出された。

トークテーマ④オープンバッジアイディアについて、スコア順の結果を図12、出現頻度順の結果を図13に示す。



図12 トークテーマ④スコア順の結果

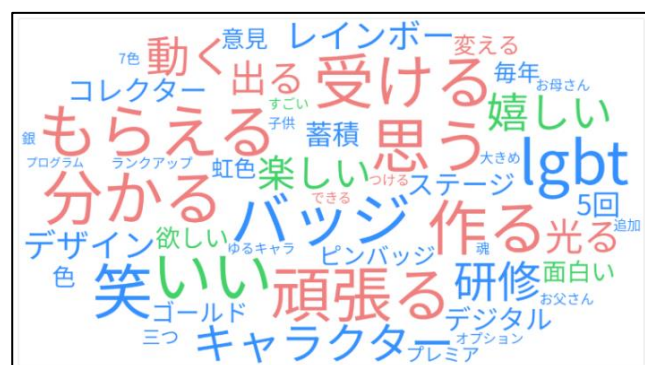


図13 トークテーマ④出現頻度順の結果

スコア順では、「ピンバッジ」「7色」等が大きく現れた。「オープンバッジを広めるために本当にリアルなバッジを作るもの面白い」「ピンバッジだったらカッコいい」「人に見せたら動くとテンションが上がりそう」「7色バッジはプレミア感」等の意見が出された。

出現頻度順では、「受ける」「もらえる」「頑張る」等が大きく現れた。「コレクター魂に火をつけるなら、5回受けたらちょっと大きめのバッジが追加でもらえる等のオプションがあるとよい」「3回受けるとキラキラバッジがもらえるなら、頑張りたいと思う」等の意見が出された。

## V 調査研究の分析と考察

前掲の表2のとおり検証を行った。

10月末までにオープンバッジを受領した人に2回目アンケートを実施。79名中44名から回答が得られた。

### 1 国民のデジタルリテラシーの向上（ア）について成果があったか

オープンバッジ発行対象研修・講座の受講者146名のうち、オープンバッジの希望者は127名となり87.0%にデジタル技術を利用する機会を提供することができた。

#### (1) 2回目アンケートの結果から

図14は、項番8「オープンバッジが今後、自身にとって役立つと思うか」について、それぞれの回答の割合を示したものである。

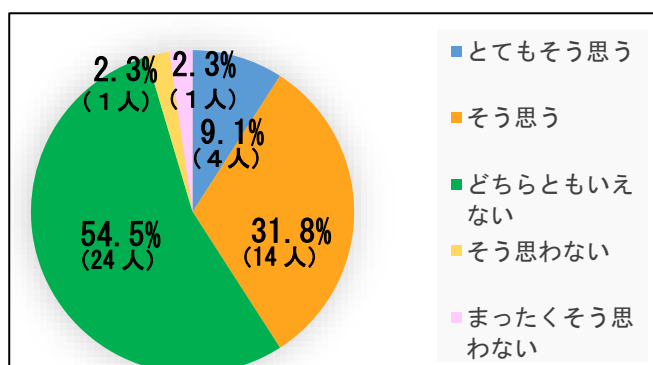


図14 オープンバッジが今後、自身にとって役立つと思うか  
n=44

肯定的回答「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は40.9%となり、否定的回答「そう思わない」「まったくそう思わない」の4.5%を大きく上回った。肯定的回答の理由には、「研修の受講歴を簡易に見える化できるため」「デジタル化やペーパーレス化の社会では必須だと思う」等が挙げられた。また、「どちらともいえない」と回答した理由には、「これまで他で見聞きしたことがない」「オープンバッジについての周知・認知度が低い」

等が挙げられ、否定的回答の理由には、「自分のやりたいことにあまり関係がない」等が挙げられた。

この結果から、オープンバッジを活用することは「学習履歴を可視化・蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促すこと」について、一定の成果があったと考える。

次に、項番8及び項番10「オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思うか」について、クロス集計した結果を、図15に示す。

項番8の肯定的回答をピンク、項番10の肯定的回答（ここでは、11段階の「6」以上とする。）を水色、両方が重なる部分を紫色で表す。

項番8は、自身について問われており、肯定的回答は18名で40.9%、項番10は、他者について問われており、肯定的回答は16名で36.4%、両方肯定的回答は13名で29.5%、両方否定的回答は21名で47.2%となった。

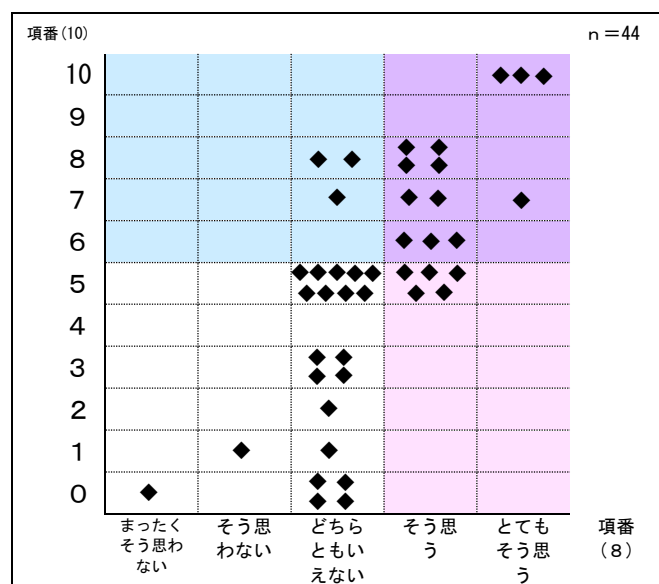


図15 オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思うか  
n=44

項番10で「10」と回答した人は3名で、「学習したことの証明になるから良い」「広めて認知された方が活用が進むから」等と回答している。「5」と回答した人は9名で一番多く、「現状、活用法が少ない」「自分がまだ理解していないことを他人には勧められない」等と回答している。「0」と回答した人は5名で、「バッジがあってもなくても（自分の活動は）変わらない」等と回答している。また、「6」以上の回答をした16名のうち13名が複数のオープンバッジを受領しており、項番8においても概ね肯定的な回答をしていることから、複数受領する

ことによってオープンバッジを集める楽しさや、オープンバッジの価値に気付き、他者に勧めたいという回答に繋がったのではないかと考える。これらのことから、オープンバッジを複数受領することは、継続的なデジタル技術利用を促すことにつながると考える。また、オープンバッジの認知度を高めることや受領者を増やすこと等が必要であると考え。

## (2) 1回目・2回目アンケートの突合データの結果から

1回目・2回目アンケートにおいて、「修了証として、どのような証明書を発行してほしいか」という設問に対し、回答に大きな差は見られなかった。しかし、1回目アンケートでは、「紙」と回答したのは1名だったが2回目アンケートでは3名に増えており、「デジタルは操作方法が分からない」等と回答している。オープンバッジを受領してみたが使い方が分からず、活用していないため紙がよいという理由が挙げられていた。

このことから、「学習履歴を可視化・蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促すこと」について、受領者が可視化した自身の学習履歴を活用する場や、受領したことのメリットが感じられる場が必要であると考え。

## 2 学びの可視化とモチベーションの向上（イ）について成果があったか

### (1) 2回目アンケートの結果から

図16は、項番2「他のオープンバッジを取得してみたくなったか」について、それぞれの回答の割合を示したものである。

「はい」と回答した人は31.8%で「いいえ」と回答した人の4.6%を上回った。「どちらともいえない」が63.6%で過半数を超えた。

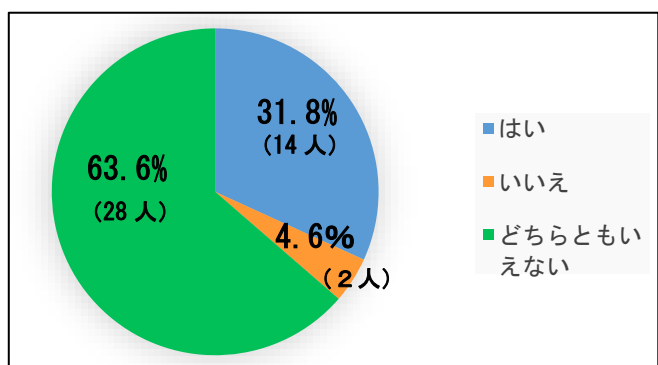


図16 他のオープンバッジを取得してみたくなったか  
n=44

次頁図17は、項番3「オープンバッジが発行され

る講座について」について、それぞれの回答の割合を示したものである。

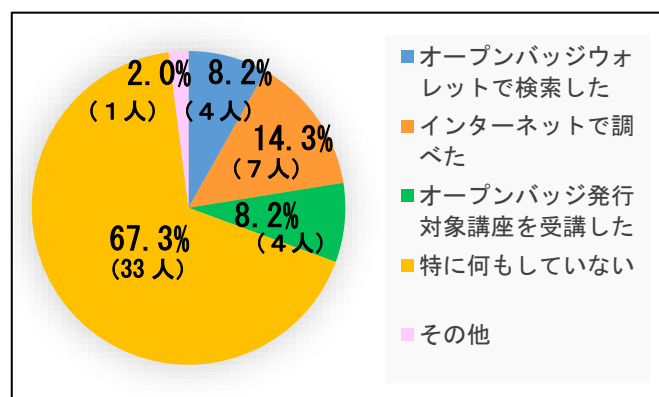


図17 オープンバッジが発行される講座について  
(複数回答可) n=44

オープンバッジを受領後、オープンバッジが発行されている他の講座について「オープンバッジウォレットで検索した」と回答した人は4名で8.2%、「インターネットで調べた」と回答した人は7名で14.3%、「オープンバッジ発行対象講座を受講した」と回答した人は4名で8.2%となり、肯定的回答をした人は合計15名で34.1%となった。

図16及び図17の結果から、「オープンバッジの利用を通して学びのモチベーション（意欲）を高め、それを維持し、自発的な学習を促すこと」について3割程度効果があったと考える。

## (2) 1回目・2回目アンケートの突合データの結果から

1回目アンケート項番15において、「身に付けたスキル、学びたい内容」について、2名以上回答のあった内容を図18に示す。

「ファシリテーション」が一番多く、11名が回答したが、その他の項目は回答者が1名から4名となり、回答内容が多岐に渡った。2回目アンケート項番3（図18）において、「バッジを受領した講座以外の研修や講座を受講する予定がなかった」と回答した人が一番多かったことから、当センターが主催する研修及び講座以外にも、学びたい、身に付けたことがあることが分かる。また、当センターの研修及び講座のうち、五つのみオープンバッジ発行対象研修・講座としていたため、オープンバッジをきっかけに学びのモチベーションが高まるというところまで至っていないことが考えられる。そのため、今後生涯学習分野でのオープンバッジ発行対象研修・講座を拡大することで、あらゆるスキルや学習

履歴をオープンバッジで証明することが、学びのモチベーションを高めることにつながると考える。

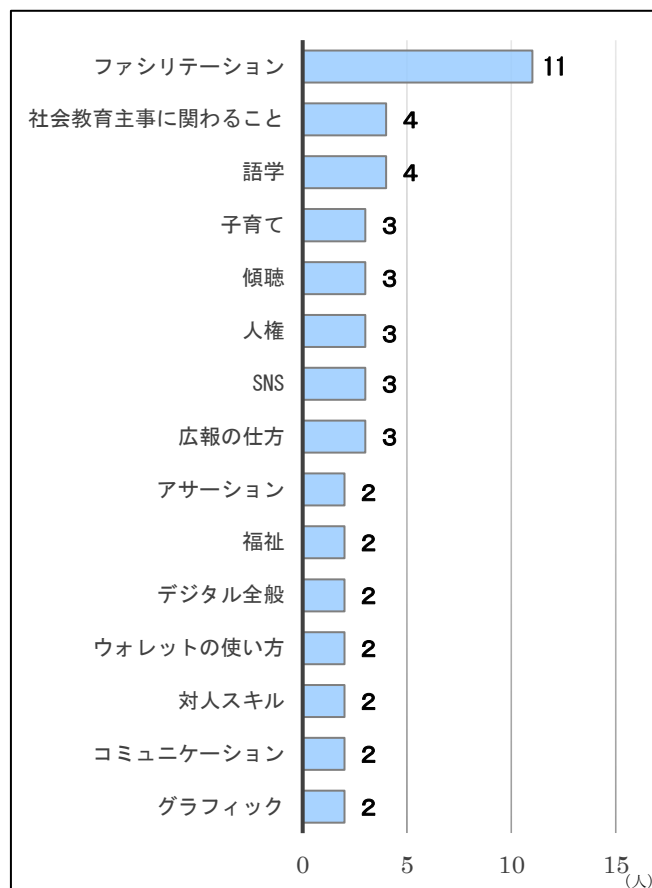


図18 身に付けたいスキル、学びたい内容（複数回答可）  
n=44

## (3) 受領者インタビューでの意見から

「オープンバッジはモチベーションの向上につながるのか」について、「二つ目、三つ目と増えるとウォレットを見て「あ、増えた増えた」と一人で喜んだ」「デジタルで一元化して管理することで、自分が「勉強をした」という励みになる」「家庭環境にとらわれずに蓄積していくというのは良い」等の意見が出された。これらの意見から、オープンバッジの活用は、「オープンバッジの利用を通して学びのモチベーション（意欲）を高め、それを維持し、自発的な学習を促すこと」について、有効であったと考える。

## (4) 受領者交流会での意見

「オープンバッジはモチベーションの向上につながるのか」について、「デジタルの蓄積を評価してもらえたら嬉しい」「コレクター魂に火をつける」「遠慮している人でも参加してみたいくなるきっかけの一つになる」等の肯定的意見が出る一方、「今年



度はオープンバッジが欲しくて受講したのではなく受講したらもらえた」等の意見も出された。このことから、オープンバッジを活用することは、学びのモチベーションの向上につながるが、同じ分野の複数の研修・講座でオープンバッジを発行する等、一つ受領することで学びのモチベーションが高まるような取組が必要であると考ええる。

### 3 「学び」を通じたコミュニティの活性化（ウ）について成果があったか

#### (1) 2回目アンケートの結果から

図19は、項番14「オープンバッジウォレットに追加してほしい機能」について、各項目の回答数を示したものである。

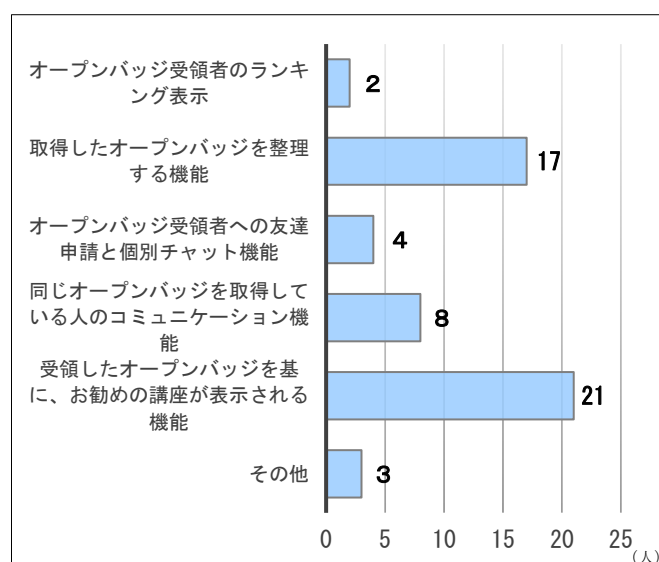


図19 「オープンバッジウォレットに追加してほしい機能（複数回答可） n = 44

一番多かったのは、「受領したオープンバッジを基に、お勧めの講座が表示される機能」と回答した21名で47.7%、続いて「取得したオープンバッジを整理する機能」と回答した17名で38.6%となった。

「学び」を通じたコミュニティに関わる項目について、「オープンバッジ受領者への友達申請と個別チャット機能」と回答した人は4名で9.1%、「同じオープンバッジを取得している人のコミュニケーション機能」と回答した人は8名で18.2%となった。

この結果から、「学び」を通じたコミュニティの活性化について、ウォレットの機能として必要としている人は少ないことが分かった。受領者にとってウォレットの機能は、学習履歴のデジタル証明として、活用の期待が大きい。

#### (2) 受領者インタビューでの意見から

「バッジ受領者同士のつながりやコミュニティの形成」について、「研修だけのつながりではなく、一歩引いたところのフラットな状況でも交流できるのでよい」「オープンバッジを持っている方のフリートークルームを開催しますよ、という箱ができてしまえば、皆さん積極的に入って来られる」等の意見が出された。また「どんどん違う方とお話するよい機会になって、お互いのスキルアップ・知識の向上にもつながっていくのがよい未来だ」等の意見が出されたことから、オープンバッジを活用したコミュニティ形成に対する期待が大きいと言える。

#### (3) 受領者交流会での様子

オープンバッジ受領者交流会では、同じ研修・講座のオープンバッジを受領した人同士でグループに分かれたため、具体的な活動内容の交流や悩みの相談等が話題になったグループもあった。各市町で活動されている方々が、オープンバッジを通じてつながることができた。「バッジ受領者同士のつながりやコミュニティの形成」について、「オープンバッジを持っている人がいろんなところにいて、情報共有できたり、自分の企画のアドバイスをもらったり等ができたらありがたい」「情報を載せて、意見を言い合えるというのがコミュニケーションとしてできたら面白い」等の意見が出された。

これらのことから、オープンバッジ受領者交流会は、「学び」を通じたコミュニティの活性化に、有効であったと考える。

#### (4) 受領者交流会振り返りアンケートの結果から

オープンバッジ受領者交流会の振り返りアンケートから、「1. 交流会に参加して」（複数回答可）の回答結果を表16に示す。

表16 「1. 交流会に参加して」の結果 n = 14

| 1. 交流会に参加して        | 人  | %     |
|--------------------|----|-------|
| 楽しかった              | 14 | 100.0 |
| 新しく知り合いになれた        | 3  | 21.4  |
| 新しい発見があった          | 5  | 35.7  |
| 新しくやってみたいことができた    | 1  | 7.1   |
| 仕事（活動）へのヒントが得られた   | 6  | 42.9  |
| 明日もがんばろうという気持ちになった | 6  | 42.9  |
| もっといろいろな人と交流してみたい  | 7  | 50.0  |
| 特に何もなかった           | 0  | 0.0   |

「楽しかった」と回答した参加者の割合が100%

となった。続いて、「もっといろいろな人と交流してみたい」50%、「仕事（活動）へのヒントが得られた」42.9%、「明日もがんばろうという気持ちになった」42.9%となった。

次に、「3. オープンバッジ受領者交流会について」（複数回答可）の回答結果を、表17に示す。

表17 「3. オープンバッジ受領者交流会について」の結果  
n=14

| 3. オープンバッジ受領者交流会について                       | 人  | %    |
|--------------------------------------------|----|------|
| 定期的開催                                      | 4  | 28.6 |
| 受領したオープンバッジごとの交流会                          | 10 | 71.4 |
| オープンバッジが受領できる他の研修等の情報提供                    | 4  | 28.6 |
| オープンバッジの活用方法や他のオープンバッジの検索方法等、オープンバッジに関わる演習 | 2  | 14.3 |
| 特になし                                       | 1  | 7.1  |
| その他                                        | 1  | 7.1  |

「受領したオープンバッジごとの交流会」と回答した参加者の割合が71.4%となり、今回と同じ、受領したオープンバッジ毎にグループ分けした交流会を希望する回答が多かった。

「2. 新しいコミュニティについて」（記述）において、「「オープンバッジの活用」というテーマだけでもいろいろな提案や意見があり楽しかった」

「研修だとそのことばかりの話になるけど、ざっくばらんにいろんな話ができて、意見が聞けて楽しかった」「一つのテーマについて話をすると他の人のアイデアをきっかけに、自分のアイデアも誘発される感覚が楽しかった」「他の市町の状況や事例を聞くこともできて参考になった」「社会教育や生涯学習、公民館について何かしら熱量を持った職員同士がコミュニケーションを取れる場があることによって建設的な意見交換ができることに、心強さを感じた」等の回答があった。

これらのことにより、オープンバッジ受領者交流会は、「学び」を通じたコミュニティの活性化に、有効であったと考える。

## VI 成果と課題

### 1 調査研究の成果

オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行うことは「国

民のデジタルリテラシーの向上」や「学びの可視化とモチベーションの向上」に有効であることが分かった。また、その効果を高めるためには、長期的な取組が必要であることが分かった。

### 2 調査研究の課題

今後は、複数の研修・講座においてオープンバッジを発行し、オープンバッジ活用セミナーや受領者交流会等を開催する等して、受領者の意識の変容を分析していく必要がある。

次年度以降も本調査研究を進めていくことで、生涯学習分野で活躍する方々の学びやスキルを価値付け、更なる学びのモチベーションの向上を図り、社会教育人材の育成につなげていきたいと考える。

### おわりに

2021年にデジタル庁が発足し、2023年6月に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において、「誰しものがデジタル化の恩恵を享受することにより日常生活等の様々な課題を解決し、豊かさを真に実感できる『誰一人取り残されない』デジタル社会の実現」<sup>9)</sup>が示され、国民がデジタル技術に触れることが重要であると示されている。

この調査研究はまさに、国民がデジタル技術に触れる機会となり、継続的なデジタル技術利用を促すものとなった。しかし、オープンバッジ受領者がデジタル化の恩恵を受けたかというところではない。企業でも、学校教育でもない生涯学習分野において、オープンバッジ受領者がデジタル化の恩恵を享受できるようになるのは、全国的にオープンバッジの発行が進み、受領者が増え、コミュニティ形成が進んだその先である。受領者側だけでなく、受領者が所属する組織が、オープンバッジの価値を知り、受領することを尊重し、そういう人材を活用する意識が無ければならない。オープンバッジの発行が進むにつれ、その恩恵は様々な方に享受され、便利なツールとなる日がやってくる。「あの時オープンバッジを受領してよかった」と思っていただけのようにこの取組を継続し、発信していきたい。

### 【注】

- (1) 教育政策研究会（昭和62年）：『臨教審総覧（上巻）』第一法規出版株式会社p. 74に詳しい。
- (2) 生涯学習審議会（平成4年）：『今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について（中間まとめ）』<https://www.ipss.go.jp/publication/j/>



shiryou/no.13/data/shiryou/syakaifukushi/447.pdf p.137に詳しい。

- (3) 生涯学習審議会（平成11年）：『学習の成果を幅広く生かすー生涯学習の成果を生かすための方策についてー』第2章『生涯学習の成果を「個人のキャリア開発」に生かす』[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/010702d.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/010702d.htm)に詳しい。
- (4) 中央教育審議会（令和2年）：『第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理』p.1に詳しい。
- (5) 中央教育審議会（令和4年）：『第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理』p.17に詳しい。
- (6) Multiverseについては、<https://www.netlearning.co.jp/index.html>に詳しい。
- (7) オープンバッジについては、<https://www.netlearning.co.jp/blog/article/20231002.html>に詳しい。
- (8) ユーザーローカルAIテキストマイニングについては、<https://textmining.userlocal.jp/>に詳しい。
- (9) デジタル庁（令和5年）：『デジタル社会の現に向けた重点計画』<https://www.digital.go.jp/policies/report-202209-202308/friendly-public-service>に詳しい。

#### 【参考文献】

- 木村恵子・谷口直隆・宮崎康子（2023）：『教育学のグラデーション』ナカニシヤ出版
- 生涯学習審議会（平成4年）：『今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について（中間まとめ）』<https://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryou/no.13/data/shiryou/syakaifukushi/447.pdf> p.137
- 生涯学習審議会（平成11年）：『学習の成果を幅広く生かすー生涯学習の成果を生かすための方策についてー』第2章『生涯学習の成果を「個人のキャリア開発」に生かす』[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/010702d.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/010702d.htm)
- 山川肖美（1996）：『生涯学習におけるポートフォリオの機能ー学習成果の評価機能を中心としてー』教育学研究紀要（中国四国教育学会）
- 山川肖美（1996）：『生涯学習におけるポートフォリオ概念の再検討』学社融合の生涯学習（日本生涯学習学会年報）

令和5年度広島県立生涯学習センター調査研究成果報告書

---

# 生涯学習における学習履歴の可視化・ デジタル化に関する調査研究 ー オープンバッジの活用を通して ー

---

令和6年12月

**ぱれっとひろしま**  
広島県立生涯学習センター

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47

TEL 082-248-8848

FAX 082-248-8840

メール [sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp)

H P <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>

---